

令和7年度 共同研究報告書

研究区分		一般共同研究		
研究課題名		歯周病に関わる免疫応答の解析		
新規・継続の別		新規 ・ <span style="border: 1px solid black;">継続</span>		
研究代表者	所属	花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所	35歳 以下○	40歳 以下○
	職名・氏名	高橋 典敬		
研究分担者 (適宜行を追加し て下さい)	所属		/	/
	職名・氏名			
	所属		/	/
	職名・氏名			
受け入れ教員	職名・氏名	教授 高岡晃教		
概要 (100～150 字程度)		歯周病の発症要因の解明のために、歯周病関連細菌と歯周組織細胞の相互作用について、主に自然免疫分子に着眼した種々の解析を行う。		
研究目的 (300 字程度)		<p>歯周病は細菌感染症の一種と考えられているものの、未だ原因菌の特定には至っていない。また、歯周病に関連している細菌として、<i>Porphyromonas gingivalis</i> 等、複数の病原性細菌が報告されているが、それらの細菌は健常者でも口腔内に存在していることが報告されており、病原菌の存在だけでは、歯周病の発症要因は説明できないと考えられている。そのため、病原菌を認識する自然免疫をはじめとした、宿主側の因子に着眼した研究が盛んに行われている。しかしながら、これまで最も研究されてきた <i>P.g.</i> の LPS を認識する分子である Toll like reseptor-4 は、KO マウスを用いた研究によって、その関与が大きい可能性が報告され、歯周病における新しいパラドクスが求められている。</p> <p>そこで本研究では、歯周病における自然免疫応答の役割を網羅的に解析することで、新しい歯周病の予防や治療の方法の確立を目指す。</p>		
研究内容・成果 (1000 字程度・Web 会議の回数も記載)		今年度は、3 回の研究指導と、3 回の実験指導を賜り、 <i>P.g.</i> が病原性を発現するメカニズムとして、自然免疫分子の中でも内在性レセプターの重要性を示唆するデータを取得した。このデータをもとに、当該パスウェイを含め、 <i>P.g.</i> の細胞への感染を抑制する薬剤について解析を実施し、論文を投稿した。		
成果		【学会報告】 なし		
		【論文発表】 投稿済み、査読中。		

	【新聞報道】 なし
	【学位取得者】 なし